YAMAHA MUSIC FOUNDATION

ヤマハ音楽教室
小学生からはじめる「ジュニアスクール」に
子どもリポーターが体験入学

楽器を奏でる楽しさを体験したよ！

バンドを組みたい、ギターやドラムをやってみたいという小学生が増えています。かっこよく楽器を演奏するSNSなどの動画配信も人気。「〝弾きたい〟気持ちがはじめどき！」と、演奏を基礎から楽しく学べるのが、ヤマハ音楽教室の「ジュニアスクール」です。今回はギターコースとドラムコースに、子どもリポーターが体験入学しました。

ギターコース

かっこよく弾いて、ギターを身近に体験

この日、子どもリポーターのために用意されていたのは、子どもが扱いやすい小さなサイズのギター。「いすの背もたれから体をはなして、少し前かがみに弾くと、かっこよく見えるよ」と先生。

「弦をおさえる時は洗濯ばさみのように」「ピックは手裏剣みたいに」、またギターコードのおさえ方を6階建てのマンションの部屋番号に例えたりと、先生の教え方は、具体的でユニークです。

ギターコース 中村先生

大垣内　奏さん（4年）
小さい頃からヤマハのエレクトーンコースに通って音楽に親しんでいます

ギターの持ち方がわかった二人に、先生は、「なんの曲を練習しようか？」と、いくつか候補をあげました。決まったのは、あいみょんの「マリーゴールド」。先生に指定された番号の弦をおさえてはじけば伴奏ができる仕組みです。

弦をはじいてから、首をかしげた大垣内さんに、「フレットに近いほうを押さえてごらん」と先生。「コツがわかったら、いい音を出せるようになりました」と、大垣内さん。中島さんは「伴奏も楽しかったけれど、今度は、マリーゴールドのメロディーを弾いてみたい」。かっこよく弾くことができた二人は、ギターを身近に感じることができました。

ドラムコース

全身でビートを刻んで、音楽のリズムを学んだよ

まずは先生が『ルパン三世』のテーマ曲でドラムを演奏。レッスン室に鳴り響く迫力のビートと、キレッキレのスティックさばきに、二人は目を見張りました。

二人ともスティックを握るのは初めて。握り方を習うと、ゴム製の練習台を、そっとたたき始めました。先生の「タ・タ・タ」という声の合図に合わせ、四分音符や八分音符のリズムを刻みます。

さっそくドラムセットに移動し、『忍たま乱太郎』のテーマ曲「勇気100%」の音源で実践。バスドラムのペダルを右足で踏むところから始めます。「オッケー、かかとでも、つま先でも、どっちでもいいよー」。ドーン。「もっと、もっと強くー」。先生がお手本を見せ、それを真似してたたく——。これを何度かくり返しながら、だんだんたく数や場所も増えていって、どんどん音が重厚になっていきます。

「足と手と、違う動きをするのでむずかしかったけど、リズムがつかめたら、曲にのせるのが楽しくなってきました」と中島さん。「いろんな音が出せて、気持ちよかった」と、大垣内さんも満足そうです。

ドラムコース 山本先生

中島　悠理子さん（5年）
ピアノが得意。
学校のクラブで
金管楽器のユーフォニアムを
担当しています

大きな音から耳を守るためにイヤホンをつけます

先生から

【ギター講師】中村　康太先生

長年にわたって培われてきたヤマハ音楽教室の指導カリキュラムがベースにあるので、自信をもって、ギターの楽しさを教えることができます。ギターを好きになって、夢中になってほしい。楽しくて夢中になれた喜びは、いろいろなことに挑戦するときのパワーになると思います。

【ドラム講師】山本　春花先生

わたしがドラムを始めたのは小学3年生のとき。ヤマハの教室がきっかけです。学生の頃はバンドを組んで、みんなで力を合わせてやりとげることの手応えや、ワクワクするときめきを、たくさん経験できました。グループで音楽を奏でる楽しさを子どもたちにも伝えたいです。

お父さん・お母さんの声

中島　豊さん

こんなに短い時間で、一曲を通して弾けるようになるのですね。緊張しながらも、うれしそうに演奏する姿を見て、音楽っていいなと思いました。

中島　慶子さん

わたしたちが子どもの頃には考えられなかった習い事ですが、ギターもドラムも、本当に楽しそう。思わず子どもといっしょに演奏してみたくなりました。

大垣内　悠さん

日頃から好奇心旺盛な息子ですが、ギターとドラムの初挑戦を終えて、さらに目が輝いたようです。いろんなことへのトライを応援したいと思います。

今回体験した、中島さん親子（左）と大垣内さん親子（右）

取材先

今回は、有隣堂戸塚ミュージックサロン（神奈川県横浜市）でレッスンを体験しました。